

- Q. 「フィリップ モリス」のような語句の検索はどのように行ったらよいですか？「フィリップ モリス」と「フィリップ and モリス」のどちらの形で入力するべきですか？
- A. 「フィリップ モリス」という会社名が入っている全ての文章を見つけるためには、会社名をその通りに入力します。これら 2 つの単語が並んで使用されているもののみを探す場合には、その語句を引用符で囲みます（「フィリップ モリス」）。同様に、例えば「政治戦略」という複合語が入っているものを見つけない場合には、「政治戦略」とそのまま入力し、全体を引用符で囲みます。しかし、「政治」と「戦略」という語の両方が別々であっても文章のどこかに含まれているものを全て見つけたい場合には、検索基準に「政治 & 戦略」と入力します。
- Q. プライバシーは保護されますか？たばこ会社には私が検索していることが分かるのでしょうか？
- A. 一部のサイトは、アクセスするとブラウザに標識（いわゆる「クッキー」）が埋め込まれます。この標識は、会社側の人々がサイトのどこにアクセスし、何を見たかを教えます。現在のところ、この情報によって個人を特定することはできませんが、閲覧者が使用しているインターネットのサービスプロバイダーを特定するようクッキーを設定することは可能です。どのブラウザでも、クッキーをブロックする、または各使用後にクッキーを削除するように設定することができます。
- Q. 文書のテキスト部分をワープロにコピーする方法はありますか？
- A. いいえ。一言一句タイプし直す以外に方法はありません。文書はオンライン接続中に直接サイトから印刷しなければなりません。PDF フォーマットで文書の閲覧・印刷ができるサイトの場合、このフォーマットを使用した写しが最上のものになります。また、「save（保存）」アイコンをクリックし、その文書を PDF フォーマットで自分のコンピューターに保存することも可能です。スキャナーを使用して印刷した文書をスキャンすることは可能ですが、それに対応する文字認識ソフトはまだ精密さに欠けます。
- Q. ある単語や語句について検索しようとしたのですが、何もヒットしませんでした。より生産性の高い検索を行うにはどのようにすればよいですか？
- A. 創造性を発揮しましょう。自分が探していることについて何らかの発見をもたらす可能性がある、あらゆる語句を考え出してください。そして最も重要なことは、探し出したものに注意深く目を通すことです。多く読めばそれだけ検索の生産性を高める用語を多く見つけ出すことができます。執筆者の名前に加え、会社が特定の地域、プロジェクト、およびマーケティング手法に対して用いている専門用語や略語を書きとめ、それらの用語や名前が使われている文書を検索していきましょう。

業界内部文書からの女性に関する記述の抜粋

出典：「広告の新たなターゲット：『男性的な女性』ワシントンポスト、1990年2月17日

「R.J.レイノルズ・タバコ社は、近々新たな紙巻たばこ銘柄『ダコタ』を発売することを計画している。同社のために作成された綿密なマーケティング戦略によると、この銘柄は、同社が『男性的な女性』と呼ぶ若い低学歴の白人女性を標的にしている。その広告キャンペーンは、同マーケティング計画によれば、余暇にボーイフレンドと『クルージング』や『パーティー』をしたり、『ホットロッド（改造車）ショー』や『トラクターの牽引大会』を観に行くのが好きな女性たちという特定の集団に焦点を当てたものである。（中略）同社は好ましい『ダコタ』喫煙者について、最終学歴が高校以下で、好きなテレビ番組は『ロザンヌ』と『夕方のソープオペラ（軽蔑的な用語のため削除）』、そして『20代前半に結婚し、自由な時間をボーイフレンドと共に彼と同じことをして過ごすこと』が最大の望みである女性、と表現している。

また同計画は、少数の潜在的消費者との面接に基づいた今後の広告オプションについても概説しており、『硬派過ぎるもの・・・要するに不良系／冷たい印象のもの（バイクジャケット）は不可』『少女趣味過ぎるものは不可。従順過ぎる女性（無関心な男に媚を売るなど）の描写は不可』とメモに書かれている。

ページNo. 515576297/6299

出典：ブリティッシュ・アメリカン・タバコ社「女性の喫煙行動」

「（ある）報告は、女性喫煙者において神経症的性格を持つ人の割合が高いという予期せぬ発見をしたと主張しており、男性は部族的習慣として喫煙するが、女性は不安定さの症状として喫煙することを示唆している。」

報告書No. RD 1410 機密報告書、1976年12月11日

出典：フィリップ・モリス「バージニア・スリム世論調査PR計画」1996年10月

「目標：バージニア・スリム世論調査を米国において最も権威ある女性問題および女性意見の記録とすること。それにふさわしい歴史、伝統、そして視野を備えているのはバージニア・スリムのみである。」

ページNo. 2044417376/7386

出典：R.J.レイノルズのサイコグラフィックス・プロファイル、1988年4月7日

全般的な意見および姿勢：

クラスター1：高齢女性

「全セグメントの中で最も収入が少なく、将来何かを達成するというビジョンはほとんど持っておらず、過去に生きている（中略）。その年齢、孤独感、およびぎりぎりの経済状況により、リスクを避け、どちらかというと非活動的だが、自分に残された数少ない娯楽を最大限楽しんでおり、そのひとつが喫煙となっている。これらの女性は他のあらゆるセグメントの女性よりも喫煙を楽しんでおり、RJR および競合企業のクーポンを最も積極的に利用している。」

クラスター4：地味な女性

「これらの女性はバーゲン品をあさり、衝動買いはほとんどせず、可能な限り節約を図る。これらの女性は紙巻たばこクーポンの積極的な利用者である。学歴があまり高くなく、芸術にはほとんど関心を持たない。家庭にはビデオデッキがないことが多い。これらの地味な女性喫煙者は、波風を立てないように人生を送り、常に目立たないようにしている。自分の活力を家事に注ぎ、仲の良い友達でグループを作っている。圧倒的に主婦が多い。」

クラスター5：ビデオ好き

「ビデオ好き（73%が女性；56%が既婚者）はテレビをよく見る。これらの人々はビデオというものを発見し、その活用法を心得ている。伝統的で女性的な屋内の家事に従事するが、家庭にまつわる屋外の仕事を避ける。ライフスタイルは非活動的であり、テレビ/ビデオの近くを定位置としている。」

ページNo. 507403273/3282

出典：R.J.レイノルズ「プロジェクトTF—明日の女性」

理論的根拠：

「18～34歳の女性喫煙者において現在評価に足るシェアを持つ銘柄の中で、バージニア・スリムを除いては明確な女性喫煙者製品ベネフィットを持つものがない。」

名称/宣伝広告/パッケージ開発：

「18～34歳の女性喫煙者が求めるイメージの分析結果は、ロマンティックな幻想/解放路線に販売促進のチャンスがあることを示している。」

ページNo. 505618415

出典：R.J.レイノルズ報告書「フロリダ観念化会議：女性のFUBYAS (First Usual Brand Young Adult Smokers)」
1985年5月10日

「コンセプト・フレームワーク・ベネフィットは：

1. 即効的な充足感、恐らく喜びの面における充足感に加え、人生におけるフォーカス（具体的な活動または存在）を提供する（例：陸軍のキャンペーン—今の自分を最大限に生かし、夜明けの落下傘作戦のスリルを体験しよう）。

2. 彼女たちのレベルまで下げない—崇高な目標ではなく、極めて短期間で達成可能な目標に限る。

ページNo. 504102889

出典：ブラウン&ウィリアムソン・タバコ社、マーケティング報告書、1982年10月。フォーカスグループとの面接からの引用

「トゥルー」の喫煙者：

「女性—過度に活動的であり、同じところをグルグル走り回るばかりで何ひとつ達成できず、行動するが前進しない。移り気で、表面的な価値しかない。軽薄。『トゥルー』の喫煙者は本物の喫煙者ではない。」

「バンテージ」の喫煙者：

「女性—トランプのブリッジをする主婦。たばこを社交の場での小道具として使用する、完全なソーシャルスマーカーである。禁煙を試みるタイプ。幽霊人口。極めて軽薄で、表面的な価値しかなく、あてにできない。」

「メリット」の喫煙者：

「働きづめでストレスを感じている女性。軽率で頭の弱いブロードで、あてにできない。親しみやすい。ハイパー（テンションが高い）。」

「カールトン」の喫煙者：

「禁煙喫煙者、絶望的な年老いた女性で、禁煙を試みる。弱々しく、泣き言を言い、気力がなく、センスが悪く、老人ホームにいるような女性。」

ページNo. 670575136/5158

出典：紙巻たばこ広告の歴史年表

「1929年：PR担当のバーネイズがモデルを雇って公共の場での喫煙や写真撮影を行い、報道記事を書くなどする。女性を集め、ニューヨークのイースター・パレードで『自由のたいまつ』[紙巻たばこ]を掲げて行進し、公衆の面前で喫煙を行う。」

「1934年：バーネイズが6ヶ月かけて今年の流行色を緑にする取り組みを行う。ヒル氏はより多くの女性にラッキーを吸ってもらいたいと考えていたが、研究によって緑は衣服と合わないため女性に不人気であることが示される。社交家ら、ニューヨーク婦人診療所、そしてアートギャラリーと共に『グリーン・ダンスパーティー』を企画し、装飾品、ドレス、テキスタイル等の製造業者と共に作業を進める。デパート、ファッション誌編集者、インテリア装飾家等に6,500通の手紙とキットを送付し、この『トレンド』を伝える。ハーバース・バザー誌およびヴァーグ誌と交渉し、グリーン・ダンスパーティーの当日、表紙に緑を掲載してもらう。[Bernays 1965; 1971] 網会社が緑色のメニュー（セント・パトリックス・デー風）を用意した『グリーン・ファッション昼食会』を開催する。『春、希望、(恐慌に対する)勝利、そして豊かさの象徴』として緑という色の有益性を示唆する心理学者の話を書いたプレスリリースを発表。[Sobel 1978] [Bernays 1965] この『世論操作のために（中略）私は予定の活動について、目標、必要な調査、戦略、テーマ、そして実施のタイミングを細かく示した包括的な青写真、手順の完璧なアウトラインを作成した。』[Bernays 1965, P.390]」

出典：「新バージニア・スリム・キングに関連する事項に関する 8 つの女性喫煙者フォーカスグループについての最重要報告書」ヘンダーソン, NR; ケンジンガー, JL. リーバ・マーケット・リサーチ, 1994年

「特定銘柄のイメージ:

特定銘柄を持つイメージには、グループが『若い』か『年を取っている』かは関係がないようであった。従って、ここに報告されている内容は各銘柄の主要イメージである。

カブリ: 女性的/スリム/バカ/頭が悪そうな広告/すました女/虹/パステル色の箱/『気取り屋』/灰皿から落ちる/年上の女性/気取っている/小さすぎる/特別価格、低価格、蘭

ミステリー: 女性的/雨/おばあちゃん/安い/まずい/みずばらしい/冬/州/湿っぽい/クーポン/ティーンエイジャー

ドール: ジェネリック/安い/年寄り/まずい/年寄りの貧乏な男の人/冴えない/『トレーラーハウスのクズ』/ジープ/炭/低タール/プラスチックのフィルター

出典：ブリティッシュ・アメリカン・タバコ社「女性の喫煙行動」

「製品設計に関して、女性全般が比較的にニコチンの少ない紙巻たばこを要求しているという証拠はそれほどないように見受けられる。実際、一部の証拠はその逆を示している。しかし、女性は男性より神経症的であることから、女性の方が喫煙と健康に関する圧力に強く反応すると考えるのが妥当であろう(後略)。」

報告書No. RD 1410 機密報告書, 1976年12月11日

出典：R.J.レイノルズ社の社長宛書簡

1988年12月9日

R.J.レイノルズ・タバコ開発会社

社長

リチャード・A・カンベ様

401 N. Main Street

Winston-Salem, NC 27102

拝啓

カンベ様

今後数年の間に御社の紙巻たばこの顧客になるであろう5歳の子供のことを想像してみてください。この次世代をどのように引きつけ、取り込んでいくことができるでしょうか？創造的な戦略的マーケティング会社として、フラニガン・エンタープライズは、家庭において確実な宣伝効果のある革新的なコンセプトを開発しました。このコンセプトは、R.J.レイノルズに新たな収入をもたらすことになるでしょう。

この国の幼い子供たちは、即時に楽しみ、学び、視野を広げたいという、興味深い欲求を抱いています。こうした子供の親たち（余剰所得のあるヤッピー）は、自分の子供のために最高のものを求めており、質と信頼性を備えたものには進んでお金を払います。こうした親たちは、自分の子供が急速に変化する今日の動的な環境に後れを取らないよう、ハイテクや現代的進歩を重視しています。

我々のコンセプトはごくシンプルなものであり、今回フラニガン・エンタープライズが提案するのは、キャメル製品を宣伝するための子供向けビデオの作成です。この宣伝は、今日の子供たちを対象とした一連のセル画アニメ（ディズニー調）ビデオを通して実現することができます。子供はアニメが大好きであり、これらのビデオはカートン／箱でのキャメルたばこの購入と抱き合わせる事が可能です。

「キャメル」のラクダのマークは、子供向けに、動いて話すアニメキャラクターに仕立てることが可能です。また、動物園や自然環境にいる生きたラクダの実写映像を組み入れることもできます。子供たちは動物を見るのが大好きであり（しかも繰り返し見ます）、このビデオには教育的／環境的テーマを組み込むことが可能です。喫煙者は頻りに「自宅であなたがたばこを吸っているところを子供たちに見せるのは悪い手本だ」と言われています。そこで、家庭におけるR.J.レイノルズのイメージアップにつながる建設的な方法 — ビデオを紙巻たばこ購入と結び付けるのと同時に、非喫煙者である子供に御社の肯定的なイメージを刻み込む方法を提示しているわけです（後略）。

ページNo. 513612438

出典：「たばこのために刑務所へ」アルバート・R・ハント著。ウォールストリート・ジャーナル、インタラクティブエディション、2001年8月2日

「本紙ではつい先日、フィリップ・モリスがチェコ共和国において、紙巻たばこが同国の予算の重荷とならない理由を示した分析結果を配信していたことを報道した。これによって紙巻たばこメーカーの比類ない傲慢と不道徳性が新たに表面化した。今回の分析の中心的主張はこうである：紙巻たばこは人々の命を奪うものであり、人が死ねば政府は医療費や住宅費、および年金に予算を使う必要がなくなる。」

出典：ニューヨークの広告代理店シェパードソン・スターン・アンド・カミンスキーの依頼によって行われた、取扱高1,000万ドル以上の広告代理店に勤める広告業界幹部300人に対する電話アンケート調査（1996年12月）

1996年12月、広告業界幹部のアンケート調査によって以下のことが明らかとなった：

1. 82%の幹部が、紙巻たばこおよびたばこ製品の広告は、その相当数が小児および10代の青少年に届いている、と考えている。
2. 78%の幹部が、たばこ広告は子供に喫煙をより魅力的なもの、または社会的に容認されるものと思わせている、と考えている。
3. 71%の幹部が、たばこ広告は子供の行動を変え、子供における喫煙を増加させる、と考えている。
4. 59%の幹部が、たばこ広告の目的は、まだ喫煙をしていない10代の青少年に紙巻たばこを売り込むことである、と考えている。
5. 79%の幹部が、小児および10代の青少年に及ぼす影響を最小限に抑えるために、紙巻たばこおよびたばこ製品の広告の形態と掲載に制限を設けることに賛成している。

コメント [MSOffice2]：原文では「6」ですが、6がとんでいるので、原文ミスの可能性大なので修正しませんでした。

出典：「RJRが勝訴」デイビッド・キャリグ著、USAトゥデイ：B1、1996年4月18日

「R.J.レイノルズ会長チャールズ・ハーバー：『子供たちは煙の立ちこめる部屋にいたくなくれば、部屋を出て行く。』株主から煙の立ちこめる部屋を出て行くことのできない乳児について尋ねられると、ハーバーは『ある程度になれば遣うようになる』と述べた。」

出典：ニューヨーク・タイムズ、1998年3月4日

ミネソタ州の訴訟におけるフィリップ・モリス社の CEO 兼理事長ジェフリー・C・バイブル氏との質疑応答：

「答：若い人々に対する紙巻たばこのマーケティングは行うべきではありません。そうした活動は、私の知るフィリップ・モリスでは全く異例のことです。」

問：そうした異例のことが続けて見られるようであれば、いずれそれは通例となるのでしょうか？

答：まあ、当社は大企業であり、多くの製品を売っていますので。」

出典：ミネソタ州の訴訟における証言のビデオ

「我々が未成年市場を調査していたとする文書を私は持っていますが、我々はそのような調査は行っていません。」

ジェイムズ・モーガン、元フィリップ・モリス社長兼 CEO

その他の参考文献およびリソース

女性とたばこに関する情報サイト

ここへの掲載は、そのウェブサイトが CDC によって認証されていることを示すものではありません。ウェブサイトは頻繁に変更されますのでご注意ください。

国立女性健康情報センター

米国保健福祉省女性健康局によって維持されているこのサイトは、米国公衆衛生総監報告書に関する女性向けの様々なリソースや情報を提供しています。

www.4womens.org

米国女性医師会

米国女性医師会は、地域、国、および世界レベルにおいて、医療に携わる女性の地位向上および女性の健康向上に取り組む組織であり、リーダーシップ、アドボカシー、教育、専門知識、個人指導、および戦略的提携の提供と育成を行っています。

www.amwa-doc.org

CHEST 財団

このサイトでは、「女性と少女、たばこと肺がんに関するタスクフォース」によって作成された講師用キットの使用をサポートするリソース、情報、および助言を提供しています。このウェブサイトには、医療専門家および学生、女性、ティーンエイジャー、そして少女向けに作成された、たばこに関するダウンロード可能なパワーポイントによるプレゼンテーションが含まれています。

speakerskit.chestnet.org (URL に「www」を使用しない)

全米反たばこ女性連合

米国女性医師会によって設立された全米反たばこ女性連合は、たばこ使用およびたばこへの曝露のリスクに対する意識を向上し、全世界の女性および少女がたばこのない生活を送るための手助けを率先して行うことを目標としています。

www.womenagainst.org

たばこ規制に関する情報サイト

ここへの掲載は、そのウェブサイトが CDC によって認証されていることを示すものではありません。ウェブサイトは頻繁に変更されますのでご注意ください。

CDC 喫煙健康対策部

このウェブサイトでは、政府の援助を受けているたばこ規制調査研究、データ (CDC の STATE システムや、その他の州/地域データを含む)、発行物 (全ての米国公衆衛生総監報告書を含む)、ポスター (クリスティー・ターリントンのポスターを含む)、ビデオ (「女性とたばこ：命を奪う7つの神話」の注文方法を含む)、ファクトシート、スモークフリー・スポーツ関連品、および禁煙リソースへのアクセスを全てひとつのサイト上で提供しています。

www.cdc.gov/tobacco

コメント [MSOffice3]: 現在、同センターのサイトは www.4woman.gov になっています。

スモークフリー・サッカー (Smokefree Soccer)

間もなく全スポーツに拡大される予定となっているこのウェブサイトは、CDCと国立がん研究所が共同スポンサーとなっており、禁煙メッセージを普及させるポスターやその他のスポーツ関連グッズの注文方法を含む、情報およびリソースを提供しています。特に青少年およびそのスポーツコーチを対象として作られています。

www.smokefree.gov

喫煙と健康に対する活動団体 (Action on Smoking and Health)

喫煙と健康に対する活動団体 (ASH) は、法的手段や教育によって、たばこにまつわる数多くの問題に対抗し非喫煙者の権利保護のために闘う全国的な非営利団体です。ASH は法廷や立法機関において、また規制当局に対し、非喫煙者の代弁者となっています。

www.ash.org

真実キャンペーン (The Truth Campaign)

真実キャンペーンは、たばこに関する真実を暴くことに尽力しています。このウェブサイトは、アメリカン・レガシー財団の痛烈な真実広告キャンペーンと協力しながら運営されています。ニュース、リソース、およびたばこ業界へのリンクが掲載されており、サイト訪問者はたばこ会社の言動を「自分の目で見る」ことができます。

www.thetruth.com、www.americanlegacy.org

非喫煙者の権利を守る米国人団体 (Americans for Non Smoker's Rights)

このサイトには、業界関係者の発言や業界内部文書からの引用、間接喫煙に関する膨大な情報、および禁煙アドボカシーのリソースが掲載されており、また青少年のアドボカシーに関する大きなセクションが設けられています。

www.no-smoke.org

全国的な健康関連組織および連邦政府機関

米国心臓学会

www.amhrt.org

米国肺学会

www.lungusa.org

米国対がん学会

www.cancer.org

米国医療研究品質局

www.ahrq.gov

国立がん研究所

www.nci.nih.gov

米国疾病管理センター

www.cdc.gov

ビデオ・リソース

女性と喫煙：致命的な誘惑

この番組は 2001 年 7 月 5 日に ABC で放映されたものであり、そのビデオは ABC のウェブサイト (www.abcnewsstore.com) から \$29.95 で入手することができます。100 本以上の注文には割引があります。なお、このビデオテープを公共の場で上映するためには、ABC の許可が必要となります。許可要請の手紙をトニー宛にファックスしてください (Fax: 212-456-1798)。また、トニーとは電話でも連絡を取ることができます (Tel: 212-456-4105)。

スラム!

「スラム!」は、若者が紙巻たばこ広告の持つ力と浸透性に対する意識を高め、たばこ業界の影響に抵抗する手助けとして、CDC の喫煙健康対策部が作成した 15 分間のビデオです。このビデオは、才能がありながら未契約の若いシンガーソングライターであり、自分の音楽を若い女性を標的とした紙巻たばこのマーケティング・キャンペーンと結び付けることを拒否したレズリー・ナチュウの話を取り上げています。このビデオにはディスカッション用の問いや教育目標が含まれており、包括的な保健教育プログラム、アルコールやたばこなどの薬物プログラム、また時事問題やメディアリテラシーの授業の一環として使用することが可能です。

www.cdc.gov/tobacco/slam.htm

煙の向こうの秘密

アカデミー賞にノミネートされた映画「インサイダー」で取り上げられたジェフリー・S・ワイガンド博士 (www.jeffreywigand.com) は、1995 年にたばこ業界の元最高幹部として喫煙が健康に及ぼす破壊的な影響を公に認めたことにより、全米で有名になりました。CDC の喫煙健康対策部によって作成された「煙の向こうの秘密」の中で、ワイガンド博士はたばこ業界による事実の歪曲について自身の体験を語っています。

www.cdc.gov/tobacco/educational_materials/secrets_smoke/VideoCoverR4.pdf

付 録

「女性と喫煙：米国公衆衛生総監報告書」
からの資料

エグゼクティブ・サマリー

これは女性と喫煙に焦点をあてた2回目の米国公衆衛生総監報告書である。最初の報告書は、1964年に米国公衆衛生総監諮問委員会によって作成された喫煙と健康に関する初の画期的な報告書（米国保健教育福祉省〔USDHEW〕1964）から16年後の1980年に発表された〔米国保健福祉省〔USDHHS〕1980〕。1964年の報告書では、喫煙がヒトにおけるがんやその他の疾患の原因となっていることを示す累積証拠を要約している。そうした初期の証拠の大半は、男性に基づくものであった。例えば、同報告書は「紙巻たばこの喫煙は男性における肺がんとの因果関係にある。（中略）女性に関するデータは、男性ほど多くはないが、同じ方向性を示している」と結論付けている（USDHEW 1964年、P.37）。1980年の報告書が発表されるまでの間に、女性も喫煙による破滅的な健康上影響を受けており、「女性における喫煙関連疾患の流行の兆しが見え始めている」（USDHHS 1980年、PV）ことが証拠によって明確に示されるようになった。女性における証拠固めが男性より遅かったのは、喫煙が女性の間で一般的になったのが男性より25年ほど遅かったためである。しかし、それでも1980年の報告書の序文に「女性安全説は誤り」と題したセクションを組み入れる必要があるという判断がなされた。それから20年間、多数の研究によって、女性における喫煙の健康影響、女性人口集団の人口統計学的サブグループにおける歴史的な喫煙パターンと現代の喫煙パターン、女性における喫煙の開始・維持に影響を与える要素（たばこ製品の宣伝広告およびマーケティングを含む）、および女性の禁煙を手助けする介入法についての知識が深められ、拡大されてきた。今回の報告書では、いまや膨大な量になった女性と喫煙に関する証拠のレビューを行う。これらの証拠は、総合的に見ると、喫煙の削減および予防を女性の健康を守るための現代の最優先事項のひとつであることを国に余儀なくさせるものである。

女性に焦点をあてた報告が大いに必要とされている。今や女性におけるたばこ関連疾患の流行は、1980年の報告書が書かれたときのように、兆しが見え始めている程度ではない。1980年以降、何百もの研究によって、女性における喫煙の健康影響に関する知識が拡大されてきており、本報告書はそれらの知識を要約するものである。今日、米国ではたばこ関連疾患が大流行している。かつて女性において稀であった肺がんは、現在乳がんを抜いて米国の女性におけるがん死亡の原因の第1位となっており、女性にお

ける全てのがん死亡の25%を占めている。これまでの調査によって、多くの女性はこの事実を知らないことが示されている。そして、肺がんは喫煙をする女性が直面する無数の深刻な疾患リスクのひとつに過ぎない。喫煙をする女性および男性は、がん、心疾患、および気腫といった疾患のリスク上昇を共有するが、女性にはそれらに加えて、妊娠、経口避妊薬の使用、月経機能、および子宮頸がんに関する女性特有の喫煙関連疾患リスクがある。これらのリスクは、もっと強調され、広く認識されるべきである。さらに、環境中たばこ煙への曝露による非喫煙者の健康影響について分かっていることの多くは、女性の研究から得られたものである。これは歴史的に女性より男性の方が喫煙率が高く、喫煙をしない多くの女性が喫煙者と結婚してきたためである。

1965年の時点では、男性の51.9%が喫煙者であり、女性の33.9%が喫煙者であった。1979年までに、喫煙をする女性の割合はいくらか減って29.9%となった。しかし、男性における喫煙率は37.5%となっており、女性よりはるかに劇的に低下した。成人における喫煙率の性別による差は、1980年の報告書の後も狭まり続けたが、1980年代半ば以降その差は約5%でほぼ一定している。1998年の時点では、女性における喫煙率は22.0%、男性における喫煙率は26.4%であった。ティーンエイジャーにおける喫煙率の性別による差は、成人よりも小さい。また1990年代には女子・男子の双方において喫煙率が上昇した。2000年の時点で、過去30日間に喫煙をしたと回答した高校3年女子は29.7%、男子は32.8%であった（ミシガン大学2000）。

近年、いくつかの研究によって、一定量の喫煙が肺がんリスクに及ぼす影響は男性より女性の方が大きい可能性があること、環境中たばこ煙への曝露が乳がんのリスク上昇に関連している可能性があること、そして女性は男性より禁煙後に体重増加が起こりやすい可能性があることが示唆されている。また別の研究は、ある特定の遺伝子多型を持つ人は、喫煙および環境中たばこ煙曝露の影響を特に受けやすい可能性を示している。これらの問題はまだ活発に研究が行われている最中の分野であり、現時点でこれらの問題について結論を出すことはできない。それでも、極めて幅広い喫煙関連の健康影響に関する知識は増え続けており、また男女別の影響の研究が重要であるという認識も高まってきている。

喫煙は最もよく研究されている人間の行動のひとつであり、何千もの研究によって喫煙の健康影響が示されている。しかし、女性と喫煙の問題に関しては、いくつか疑問点や必要なデータがある。例えば、有害な健康影響に関する圧倒的データがあったにもかかわらず1990年代に10代女子および若い女性において喫煙率が上昇した理由をさらによく理解すること、米国内の特定の社会文化的集団に属する女性や世界中の多数の発展途上国の女性を含む、現在喫煙率の低い女性におけるたばこ使用の流行を予防する介入法および政策を特定すること、これまで能動喫煙との関係を示す証拠が示唆的または一致していない女性疾患（例：月経不順、胆嚢疾患、および全身性エリテマトーデス）について能動喫煙との関係を研究すること、環境中たばこ煙への曝露が女性特有の疾患に及ぼす健康影響に関するデータを増やすこと、ニコチン依存症のなりやすさや喫煙が特定の疾患の転帰に及ぼす影響の大きさに、性別による差

があるかどうかについてさらなる研究を行うこと、そして遺伝子多型が喫煙に伴う疾患リスクに及ぼす影響に、性別による差があるかどうかを判断すること、などが必要である。多くの喫煙行動の研究および喫煙の健康影響の研究には男女双方が参加しているが、性別ごとの結果は報告されていない。今後は研究者に男女別の結果報告を奨励していくべきである。

その他の最近の米国民衆衛生総監報告書には、喫煙と青少年に焦点をあてた報告書(USDHHS 1994)、喫煙と人種・民族的マイノリティーに焦点をあてた報告書(USDHHS 1998)、および喫煙削減の介入法に焦点をあてた報告書(USDHHS 2000)がある。読者には、こういった話題に関する証拠の包括的なレビューをこれらの報告書で確認することを推奨する。本報告書では、女性と少女に関するデータ、および性別による結果の比較に焦点をあてる。

主要な結論

1. 喫煙の破壊的な健康影響について多くのことが分かっているにもかかわらず、1998年時点で女性の22.0%が紙巻たばこを喫煙していた。紙巻たばこの喫煙は女性より先に男性の間で広まり、米国における喫煙率は常に女性の方が男性より低くなっている。しかし、かつては大きかった性別による喫煙率の差は、1980年代半ばまで狭まり続け、それ以降はほぼ一定となっている。また、9年から11年の教育しか受けていない女性(32.9%)における現在の喫煙率は、16年以上の教育を受けている女性(11.2%)の3倍近くになっている。
2. 2000年の時点で、高校3年女子の29.7%が過去30日間に喫煙をしたと回答している。白人女子における喫煙率は1970年代半ばから1980年代初めにかけて低下し、その後10年間はほとんど変化がなかった。しかし1990年代初めに喫煙率は顕著に上昇し、1990年代終わりにかけて

やや低下した。この1990年代初めにおける喫煙率上昇は、それ以前の前進をほとんど相殺することとなった。黒人女子においては、喫煙率は1970年代半ばから1990年代初めにかけて大きく低下し、その後1990年代半ばにかけてやや上昇した。その他の人種・民族の高校3年生における喫煙率の長期的傾向についてのデータは得られていない。

3. 1980年以降、およそ300万人の米国女性が、喫煙に関連する新生物疾患、心血管疾患、呼吸器疾患、小児科疾患、および紙巻たばこに起因する火傷によって早期死亡している。1990年代の各年において、米国女性はこれらの喫煙者で早期死亡により、推定210万の余命を損失した。加えて、喫煙をする女性には、様々な有害な生殖関連の結果が起こるリスクの上昇を含む、女性特有の健康影響が生じる。

4. 肺がんは 1987 年に乳がんを抜き、現在米国女性におけるがん死亡の原因の第 1 位となっている。喫煙を続けている女性における全ての肺がん死亡の約 90%は、喫煙が寄与している。
5. 環境中たばこ煙への曝露は、生涯非喫煙者の女性における肺がんおよび冠動脈疾患の原因となっている。妊娠中に環境中たばこ煙に曝露した女性から生まれた乳児は、曝露していない女性から生まれた乳児に比べ、出生体重がやや少なく、子宮内発育遅延のリスクが若干高い。
6. 禁煙をした女性は早期死亡リスクを大幅に削減することになり、禁煙はあらゆる年齢において有益である。一部の臨床介入研究は、女性の方が男性より禁煙が困難である可能性を示唆しているが、全国調査のデータは女性が男性と同程度のペース、またはむしろ男性より速いペースで禁煙していることを示している。喫煙予防介入および禁煙介入は、一般的に女性に対しても男性に対しても同様の有効性があり、現在のところ喫煙開始および禁煙成功に関する要素において、性別による違いはほとんど確認されていない。
7. 妊娠中の喫煙が及ぼす有害な健康影響について知識が深まっているにもかかわらず、妊娠中の喫煙はいまだに主要な公衆衛生上の問題となっている。近年、妊娠中の喫煙率は着実に低下してきているが、それでもなおかなりの数の妊娠女性が喫煙を続けている。また妊娠中に喫煙を止めた女性のうち、出産 1 年後も禁煙を続けているのは、そのわずか 3 分の 1 程度である。
8. たばこ業界によるマーケティングは、米国および諸外国において、少女の喫煙への感受性および喫煙開始に影響を及ぼす要素となっている。女性を標的とした無数のたばこ広告およびプロモーション活動の例が、そうしたマーケティングでは社会的な望ましさと自立というテーマが大きな部分を占めていることを示している。これらのテーマは、喫煙をする非常に多くの女性が体験する深刻な健康影響とは全く合わない、スリムで魅力的で活発なモデルを使った広告を通して伝えられている。

各章の結論

以下に第 2 章～第 5 章の結論を示す。第 1 章は報告書の要旨であるため、個別の結論は記載しない。将来に向けたビジョンを示す第 6 章については、第 2 章～第 5 章の結論の後にその全文を掲載する。

第 2 章 女性および少女におけるたばこ使用のパターン

1. 紙巻たばこの喫煙は、男性の間で広まった後に女性の間で広まり、喫煙率は常に女性の方が男性より低くなっている。性別による喫煙率の差は、1965 年から 1985 年にかけて狭まった。1985 年以降、喫煙率の低下は女性も男性も同程度となっている。
2. 女性における現在喫煙率は、1924 年の 6%未満から 1965 年には 34%まで上昇し、その後 1990 年代終わりまでに 22～23%へと減少した。1997～1998 年の時点で、喫煙率はアメリカン・インディアンまたはアラスカ先住民女性(34.5%)において最も高く、中間が白人女性(23.5%)および黒人女性(21.9%)であり、ヒスパニック系女性(13.8%)およびアジア系または太平洋諸島系女性(11.2%)において最も低かった。教育レベルで見ると、教育を受けた年数が 9 年から 11 年の女性(30.9%)における喫煙率は、教育を受けた年数が 16 年以上の女性(10.6%)の約 3 倍となっている。
3. 1970 年代および 1980 年代に達成された少女の喫煙率削減における前進は、その大半が 1990 年代における喫煙率上昇によって失われた。2000 年の高校 3 年女子における現在喫煙率は 1998 年と同様である。喫煙率は、1970 年代および 1980 年代初めは高校 3 年女子の方が高校 3 年男子より高かったが、1980 年代半ば以降は同程度となっている。

4. 黒人女子における喫煙は、1970年代半ばから1990年代初めにかけて大幅に減少した。同時期の白人女子における減少はわずかであった。これらの少女たちが思春期から青年期へと移行するのに伴い、現在これらのパターンは若い女性の喫煙状況における人種・民族的な違いに反映されるようになってきている。その他の人種・民族の高校3年生における喫煙率の長期的傾向についてはデータが得られていない。
5. 妊娠中の喫煙は、1989年から1998年にかけて減少したとみられる。妊娠中の喫煙が及ぼす有害な健康影響について知識が深まっているにもかかわらず、12%（出生証明書データに基づく）から最高22%（調査データに基づく）の女性が妊娠中に喫煙していると推定されている。
6. 歴史的に女性は男性に比べて喫煙開始年齢が高かったが、1960年のコホートから、性別による喫煙開始平均年齢の違いはなくなっている。
7. ニコチン依存度は、一日に喫煙する紙巻たばこの本数と強く関連している。一日に喫煙する紙巻たばこの本数によって階層化すると、喫煙をする少女と女性のニコチン依存度は同程度であるとみられる。思春期、青年期、および成人全体におけるニコチン依存度の指標において、性別による違いはほとんど確認されていない。
8. 今まで喫煙をしたことがあり、その後禁煙した人の割合は、女性（46.2%）の方が男性（50.1%）よりやや少ない。この結果は、恐らく20世紀において男性の方が女性より早く禁煙し始めたためであり、また紙巻たばこの喫煙を止めた際に男性の方が女性よりその他のたばこ製品に乗り換える、またはその他のたばこ製品を継続して使用する可能性が高いことを考慮していないことによるものと考えられる。1970年代終わりまたは1980年代初め以降、禁煙を試みて成功する確率は、女性においても男性においても等しく高くなっている。
9. 女性における葉巻、パイプ、および無煙たばこの使用率は一般に低いが、最近のデータは女性および少女の間で葉巻の喫煙が増加していることを示唆している。
10. 女性における喫煙率は国によって著しく異なり、その割合は発展途上国の推定7%から先進国の24%まで幅がある。女性におけるたばこ使用のさらなる増加の阻止は、今日の世界における最大の疾患予防機会のひとつである。

第3章 女性におけるたばこ使用の健康影響

総合死亡率

1. 紙巻たばこの喫煙は、米国女性の死亡率に大きく関わっている。
2. 現在喫煙者におけるあらゆる原因による死亡リスクは、一度も喫煙をしたことがない人と比べて高く、喫煙年数および一日に喫煙する紙巻たばこの本数に伴って上昇する。
3. 喫煙をする女性において、喫煙が寄与している死亡の割合がこの数十年の間に増加している。これは主に紙巻たばこの喫煙量および喫煙期間の増加によるものである。
4. 1980年代に行われた、追跡データを含むコホート研究の分析は、紙巻たばこを喫煙する女性では、一度も喫煙をしたことのない女性に比べ、あらゆる原因による死亡の年間リスクが80～90%高くなることを示している。45歳から74歳の年齢層全てにおいて、喫煙を継続している女性の年間死亡リスクは、一度も喫煙をしたことのない女性の2倍以上となっている。
5. 1997年には、約165,000人の米国女性が喫煙関連疾患によって早期死亡した。また1980年以降、約300万人の米国女性が喫煙関連疾患によって早期死亡している。
6. 米国女性は、1990年代の各年に、喫煙関連の新生物疾患、心血管疾患、呼吸器疾患、小児科疾患による死亡、および紙巻たばこに起因する火傷による死亡によって、推定210万の余命を損失した。喫煙が寄与した死亡1件につき、平均14年の余命が失われたことになる。
7. 禁煙をした女性は、早期死亡リスクを大幅に削減することになる。禁煙の相対的な有益性は禁煙年齢が若いほど高いが、禁煙はあらゆる年齢において有益である。

肺がん

8. 紙巻たばこの喫煙は、女性における肺がんの主要原因である。米国女性喫煙者における全ての肺がん死亡の約90%は、喫煙が寄与している。
9. 肺がんリスクは、喫煙の量、期間、および強度に伴って上昇する。一日に2箱以上の紙巻たばこを喫煙する女性において、肺がんによって死亡するリスクは、喫煙をしない女性の20倍となっている。
10. 1950年以降、米国女性における肺がん死亡率は約600%上昇した。1987年に、肺がんは乳がんを抜いて米国女性におけるがん死亡の原因の第1位となった。女性における肺がんの総合的な年齢調整罹患率は、1990年代半ばにピークを迎えたとみられる。
11. 過去において、喫煙をする男性は喫煙をする女性に比べ、肺がんの相対リスクが高いようにみえたが、最近のデータはその差がかなり狭まっていることを示唆している。以前の結果は、主に過去の性別による紙巻たばこの喫煙期間および喫煙量の差を反映したものである。
12. 過去喫煙者は現在喫煙者に比べて肺がんリスクが低く、そのリスクは禁煙年数に伴って低下する。

女性における肺がんの世界的傾向

13. 女性における世界的な肺がん死亡率は、国によって大きく異なる。この差は、各国の女性による紙巻たばこ喫煙の受け入れの歴史的な違いを反映している。1990年の時点で、肺がんは全世界の女性における全てのがん死亡の約10%を占め、一部の先進国においては女性におけるがん死亡の20%以上を占めた。

女性特有のがん

14. 総合的な証拠は、喫煙と乳がんリスクが関連していることを示していない。
15. いくつかの研究は、環境中たばこ煙への曝露が乳がんのリスク上昇に結び付いていることを示唆しているが、この関連はまだはっきりとしていない。
16. 現在喫煙は子宮内膜がんのリスク低下と関連しているが、この効果は恐らく閉経後に限られる。過去喫煙者における子宮内膜がんのリスクは、一般に一度も喫煙したことのない女性におけるリスクに近いようである。

17. 喫煙は卵巣がんのリスクとは関連していないとみられる。
18. 喫煙は一貫して子宮頸がんのリスク上昇と関連付けられている。この関連がどの程度ヒトパピローマウイルス感染と独立したものであるかはよく分かっていない。
19. 喫煙は外陰がんのリスク上昇に結び付いている可能性があるが、この関連がどの程度ヒトパピローマウイルス感染と独立したものであるかはよく分かっていない。

その他のがん

20. 喫煙は女性における口腔咽頭がんおよび膀胱がんの主要原因である。また、喫煙をする女性の膵臓がんおよび腎臓がんのリスク上昇についても強力な証拠がある。喉頭がんおよび食道がんについては、女性における証拠が比較的限られているが、それらの証拠は一貫してリスクの大幅な上昇を示している。
21. 喫煙をする女性は、肝臓がんおよび結腸直腸がんのリスクが高まる可能性がある。
22. 女性における喫煙と胃がんに関するデータは結果が一致していない。
23. 喫煙は女性における急性骨髄性白血病のリスク上昇に結び付いている可能性があるが、その他のリンパ組織増殖性のがんや血液がんとは関連がないとみられる。
24. 喫煙をする女性は、甲状腺がんのリスクが低下する可能性がある。
25. 無煙たばこを使用する女性は、口腔がんのリスクが高まる。

心血管疾患

26. 喫煙は女性における冠動脈心疾患の主要原因である。50歳未満の女性では、冠動脈心疾患の大半に喫煙が寄与している。リスクは紙巻たばこの喫煙本数および喫煙期間に伴って上昇する。
27. 女性における冠動脈心疾患のリスクは、禁煙後1年または2年以内はかなり低下する。この即効性の便益に続き、禁煙後10年から15年以上の間、非喫煙者と同程度のリスクになるまで比較的ゆるやかなリスク低下が続く。
28. 経口避妊薬を使用する女性は、喫煙をする冠動脈心疾患のリスクが特に高まる。現在のところ、ホルモン補充療法が冠動脈心疾患のリスクに及ぼす影響に、喫煙者と非喫煙者とで違いがあるかどうかについては、証拠が一致していな

い。

29. 喫煙をする女性は、虚血性脳卒中およびくも膜下出血のリスクが高まる。喫煙と原発性脳内出血との関連については、証拠が一致していない。
30. 女性が参加している研究の大半において、喫煙に伴う脳卒中のリスク上昇は、禁煙後に改善できている。5年から15年間の禁煙で、そのリスクは一度も喫煙したことのない女性のリスクに近いものとなる。
31. 現在米国において一般的に処方されている経口避妊薬またはホルモン補充療法（HRT）のいずれかを使用しながら喫煙をしている女性における脳卒中リスクのレベルについては、証拠が一致していない。
32. 喫煙は女性における頸動脈硬化の進行および程度の強力な予測因子である。禁煙は頸動脈硬化の進行を遅らせるとみられる。
33. 現在喫煙者の女性は、末梢血管における動脈硬化のリスクが高まる。禁煙はその症状、予後、および生存率の改善と結び付いている。
34. 喫煙をする女性は、破裂性腹部大動脈瘤によって死亡するリスクが高まる。

慢性閉塞性肺疾患（COPD）および肺機能

35. 紙巻たばこの喫煙は女性におけるCOPDの最大の原因であり、そのリスクは喫煙量と喫煙期間に伴って上昇する。米国の女性におけるCOPDによる死亡の約90%は、紙巻たばこの喫煙が寄与している。
36. 母親の喫煙による子宮内曝露は、乳児における低肺機能と結び付いており、小児期および思春期における環境中たばこ煙への曝露は、少女における低肺機能と結び付いている可能性がある。
37. 喫煙をする思春期女子は肺の発育速度が遅くなり、喫煙をする成人女性は肺機能が早期低下する。
38. 肺機能の低下速度は、禁煙した女性の方が喫煙を続けている女性より遅くなる。
39. COPDによる死亡率は、女性において過去20年から30年の間に上昇した。

40. 女性におけるデータは限られているが、過去喫煙者は現在喫煙者に比べ、COPDによって死亡するリスクが低いとみられる。

性ホルモン、甲状腺疾患、および真性糖尿病

41. 喫煙をする女性は、エストロゲン欠乏性疾患のリスクが上昇し、エストロゲン依存性疾患のリスクが低下するが、女性喫煙者において主なる内因性エストロゲンの血中濃度に変化はみられない。
42. 喫煙が甲状腺ホルモン濃度に一貫した影響を及ぼすという証拠は見つかっていないが、紙巻たばこの喫煙者は甲状腺関連疾患であるグレース病のリスクが高まる可能性がある。
43. 喫煙はブドウ糖の調節および関連代謝プロセスに影響を与えるとみられるが、女性における喫煙と2型糖尿病および妊娠糖尿病の発現との関連についてはデータが一致していない。

月経機能、閉経、および良性婦人科疾患

44. 一部の研究は、紙巻たばこの喫煙が、月経困難症（痛みを伴う月経）、続発性無月経（月経周期を一度でもむかえた女性における月経の欠如）、および月経不順によって、月経機能を変化させる可能性があることを示唆している。
45. 女性喫煙者は非喫煙者に比べ、早い自然閉経をむかえ、より重い更年期症状を経験する可能性がある。
46. 喫煙をする女性は、子宮筋腫のリスクが低くなる可能性がある。

生殖関連の結果

47. 喫煙をする女性は、妊娠遅延および原発性・続発性不妊症のリスクが高まる。
48. 喫煙をする女性は、子宮外妊娠および自然流産のリスクがやや高まる可能性がある。
49. 妊娠中の喫煙は、前期・早期破水、常位胎盤早期剥離、および前置胎盤のリスク上昇、また早産のリスクの若干の上昇と結び付いている。
50. 妊娠中に喫煙をする女性は、子癩前症のリスクが低くなる。

51. 妊娠中に喫煙した女性の子供においては、死産および新生児期死亡を含む周産期の死亡リスク、および乳幼児突然死症候群 (SIDS) のリスクが高まる。
52. 妊娠中に喫煙した女性から生まれた乳児は、喫煙をしない女性から生まれた乳児に比べ、平均出生体重が少なく、在胎期間に対して小さい確率が高い。
53. 喫煙は先天性奇形の総合的リスクには影響を及ぼさないとみられる。
54. 女性喫煙者は、女性非喫煙者に比べ、自分の子供を母乳で育てる確率が低い。
55. 妊娠前または妊娠中に禁煙した女性は、妊娠遅延、不妊症、前期・早期破水、早産、および低出生体重を含む、有害な生殖関連の結果が起こるリスクが低くなる。

体重および脂肪分布

56. 紙巻タバコの喫煙開始は体重減少に結び付いていないようであるが、喫煙は長期的には体重増加を抑えたとみられる。
57. 現在喫煙者である女性の平均体重は、一度も喫煙をしたことのない女性および長期禁煙している過去喫煙者の女性と比べ若干少ない。
58. 女性における禁煙は、概して禁煙後1年間における約6~12ポンド(約2.7~5.4キログラム)の体重増加を伴う。
59. 女性喫煙者は、一度も喫煙をしたことのない女性に比べ、体脂肪分布パターンが男性的である(即ちウエスト・ヒップ比が大きい)。

骨密度および骨折リスク

60. 現在喫煙をしている閉経後の女性は、喫煙をしていない女性に比べ、骨密度が低い。
61. 現在喫煙をしている女性は、喫煙をしていない女性に比べ、股関節骨折のリスクが高い。
62. 女性における喫煙と股関節部以外の骨折リスクとの関係は明らかになっていない。

胃腸疾患

63. 一部の研究は、喫煙をする女性は胆嚢疾患(胆石および胆嚢炎)のリスクが高まることを示唆しているが、証拠は一致していない。
64. 喫煙をする女性は、消化性潰瘍のリスクが高まる。

65. 現在喫煙をしている女性は潰瘍性大腸炎のリスクが低くなっているが、過去喫煙者ではリスクが高くなっている。これは、喫煙が同疾患の症状を抑制しているためであることが考えられる。
66. 喫煙をする女性はクローン病のリスクが高まるとみられ、クローン病を患う喫煙者は非喫煙者に比べ予後が悪い。

関節炎

67. 一部の研究は、喫煙をする女性は関節リウマチのリスクが若干高まる可能性を示唆しているが、全ての研究でそうした結果が出ているわけではない。
68. 喫煙をする女性は、膝の変形性関節症のリスクが若干低くなる。股関節部の変形性関節症については、データが一致していない。
69. 喫煙をする女性における全身性エリテマトーデスのリスクについては、データが一致していない。

眼疾患

70. 喫煙をする女性は、白内障のリスクが高まる。
71. 喫煙をする女性は、加齢性黄斑変性のリスクが高まる可能性がある。
72. これまでの研究において、喫煙と開放隅角緑内障との一貫した関連は示されていない。

ヒト免疫不全ウイルス (HIV) 疾患

73. 限られたデータによって、女性喫煙者は非喫煙者に比べ HIV-1 への感染リスクが高い可能性が示唆されている。

顔面の皺形成

74. 限られているが一貫したデータによって、女性喫煙者では非喫煙者に比べ顔面に皺が多く形成されることが示唆されている。

うつ病およびその他の精神障害

75. 喫煙者は非喫煙者に比べ、うつ状態になる確率が高い。この所見は、喫煙がうつ病のリスクに及ぼす影響、自己治療としての喫煙の使用、または喫煙とうつ病双方に共通した遺伝的要素やその他の要素の影響を反映している可能性がある。女性は男性よりうつ病と診断される確率が高いため、喫煙とうつ病の関連は女性にとって特に重要である。

76. 一般的に不安障害、過食症、注意欠陥障害、およびアルコール依存症の患者では、これらの疾患のない人々に比べ、喫煙率が高いことが明らかになっている。これらの関連の根底にあるメカニズムはまだ解明されていない。
77. 喫煙率は統合失調症患者の間で非常に高くなっているが、この関連の根底にあるメカニズムはまだ解明されていない。
78. 喫煙は、喫煙をしないと精神症状を発現する可能性のある一部の人々によって、症状を管理するために使用されている場合がある。こうした人々にとって、禁煙はうつやその他の精神不安定状態の発現につながる可能性がある。

神経疾患

79. 喫煙をする女性は、パーキンソン病のリスクが低くなっている。
80. 喫煙とアルツハイマー病との関連については、データが一致していない。

ニコチンの薬理作用およびニコチン依存症

81. ニコチンの薬理作用とニコチン依存症を決定する行動プロセスは、一般的に女性も男性も同様であるとみられる。紙巻たばこの喫煙本数で標準化した場合、女性と男性におけるニコチン(ニコチンの主要代謝産物)の血中濃度は同程度である。
82. 女性のニコチン摂取調節は、男性に比べ精密でない可能性がある。女性における喫煙行動の決定には、ニコチン以外の要素(例:知覚的なきつかけ)が男性より大きく影響している可能性がある。

環境中たばこ煙(ETS)と肺がん

83. ETSへの曝露は、一度も喫煙をしたことがない女性における肺がんの原因となっている。

ETSと冠動脈心疾患

84. 疫学的データおよびその他のデータによって、配偶者の喫煙による女性非喫煙者のETS曝露と冠動脈心疾患死亡との因果関係が裏付けられている。

ETSと生殖関連の結果

85. 妊娠中にETSに曝露した女性から生まれた乳児は、曝露していない女性から生まれた乳児に比べ、出生体重がやや少なく、子宮内発育遅延のリスクが若干高い可能性がある。これらの影響はどちらも研究ごとにかんがりの差がある。
86. ETS曝露と妊娠遅延、自然流産、および周産期死亡のリスクに関する研究は少なく、その結果は一致していない。

第4章 女性におけるたばこ使用に影響を及ぼす要素

1. 喫煙を開始する少女は、喫煙をしない少女に比べ、喫煙をする親または友人を持っていることが多い。また、両親および家族との結び付きが比較的弱く、仲間や友人との結び付きが強い傾向がある。これらの少女は、喫煙率を実際より高いと考えており、リスクを冒す傾向や反抗心が強く、学校や宗教との関わりが少なく、喫煙の有害な影響およびニコチンの依存性についての知識が少なく、喫煙によって体重やネガティブな気分をコントロールできると考えており、喫煙者に対して肯定的なイメージを抱いている。性別による関連の強さは研究によって異なるが、これらの要素の大半は少女・少年の双方において喫煙のリスク上昇に結び付いている。
2. 少女は少年に比べ、体重抑制のために喫煙したいという欲求や、喫煙がネガティブな気分を抑制するという概念に影響されやすい。また少女は、少年に比べ反抗心や従来の価値への拒否感から喫煙をする傾向が強い可能性がある。
3. 喫煙を続ける女性および禁煙の試みに失敗する女性は、禁煙する女性に比べ、教育および雇用レベルが低い傾向がある。またこれらの女性は、一日の紙巻たばこの喫煙本数が多いことに裏付けられるように、比較的紙巻たばこへの依存度が高い傾向があり、また禁煙への心の準備ができておらず、社会的な禁煙支援が少なく、喫煙の誘惑に抵抗する自信がない傾向がある。